

《コーディネーター 森口健司》

ありがとうございます。かつて、1990年代、板野中学校で語り合いというのを始めたんですけど、私は今、松茂中学校で8年目で、今、1年、2年、3年と持ち上がって、毎年、年度初めに「学級開きの語り合い」から始まって、今年度の10月に「一本の大根として」という進路についても語り合いをするんですけど、やっぱり、語り合いの人権学習は積み上げなんです。その積み上げによって、語るということに慣れることによって、マイクを持って自分の思いを語ることが段々とよろこびになっていくんです。

(精いっぱい思いを込めて)この語り合いの人権学習を積み上げることは、子どもたちにとてつもなく大きな力を育んでいきます。現在の松茂中学校3年生の語り合いも見事です。

この子どもたちの確かな語り合いの背後には、子どもたちが日々の生活を綴る生活ノートの営みがあります。自分と向き合う文章、自問自答から自問自答へと意識が高まり、自分自身をさらけ出していく文章には、心が熱くなっていきます。

この語り合いの人権学習の営みを整理し、積み上げていきたいということで、人権こども塾というのが立ち上がっていった、今年で3期目なんですけど、前の画面を観てください。

これは1994年11月、徳島市で開催された「全国同和教育研究大会」で紹介した1993年度の板野中学校の同和教育の実践記録「峠を越えて」です。いろんな学校にまだ残っていると思うんです。徳島県下のほとんどの学校が購入されて。400ページくらいのハードカバーの、語り合いの人権学習、全体学習の記録なんです。

(嬉しそうにその時に思いを馳せながら)この時の生徒、30年前の生徒と再会するんです。そのきっかけになったのが、その生徒の娘さんが人権こども塾2期生として入塾してきたんです。その娘さんが、第2期の閉講式の語り合いでマイクを握って語ったんです。

お母さんは板野中学校でしたが、娘さんは違う中学校です。徳島市内の中学校です。校区に同和地区がないとされている中学校なんです。その中学校の生徒なんです。その同じ中学校から何人か来ていますけど、部落問題は「ひとごと」で遠くのことです。関係ないと思っている子どもたちがほとんどの学校です。

その学校の子どもたちが狭山のことを勉強したり、人形のムラに行ったりして学んでいく中で、自分に部落問題を近づけていくんだけど、本当に近づいたのは、この子の語りです。その場に、中野伸二君もいたし、もう1人島藤託也君もいたし、山口智恵子先生という元板野中学校の先生もいました。その場にいた一人一人の心に突き刺さりました。

部落差別を受けたお母ちゃんのことを語った言葉です。その語りは音声になっていましたから、先月の一泊研修の時に本人とお母ちゃんにも了解を得て、今回聞いてもらえることになりました。その生徒本人の音声です。

私は一番最近の学校の人権学習の語り合いで、何か一つ自分のことを語ってください、家族のことを語ってくださいという語り合いで、本当は語りたかったんですけど、他の人の目が怖くて発表ができなくて、その時からずっとモヤモヤしてたんで、ちょっと語ろうかなって思います。

私の家族で、母が部落出身なんです。それを聞いたのが中学生になった初めくらいの時で、人権学習をはじめて、それを家族に話した時にそういう話をしてくれたんなんですけど、母と父が出会って付き合っって結婚する時に、父の方の親御さんに、結婚する時に母が部落であることを伝えた時に、父の方が、母が部落出身ということで結婚することに反対するって言われたらしいんですよ。

私のお父さんは母と結婚したいって話し合ったら、お父さんのお父さんから「親子の縁を切るか。母と結婚するか」という究極の二択を与えられたんです。その時、父はすごい考えて倒れるほど考えて、結果は親子の縁を切って母との結婚をする方を選んでくれたんです。

私はもし父が母と結婚せずに親子の縁を切らずにいたら、私は存在しなかったから、父が親子の縁を切っても母との結婚を選んでくれたので、すごい私は良かったな。格好いいなって。部落のこととかも、…。何て言いたいんだろう。

親の言うことばかりを意識せずに結婚の方を選んでくれたのがすごい嬉しくて、感謝をすごいしています。自分の意見にまっすぐなのがいいなって思いました。なんかよくわからないけど、ありがとうございました。

(一言一言を込めて) 1年間、人権こども塾での語りを聞いてきたけど、最初は自分から語るような子ではなかったんです。そんな彼女が変わっていきました。それは仲間の存在です。仲間の語りに重ねて、自分のことを段々と語るようになってきたんです。

彼女は、真っ直ぐな言葉で、お父さんのことを格好いいと言い、お母さんのことを尊敬しています。

先月27日、28日に人権こども塾で岡山県の国立ハンセン病療養所の長島愛生園に一泊研修に行ったんです。その一泊研修にお母さんも参加してくれました。できたらご主人もと言ったんですけど、初めてでもあり気恥ずかしいのでということで、ご主人は来られませんでした。集合場所の教育会館への送り迎えだけ来られていました。何とも言えないその雰囲気の良いさにやっぱりジーンと来るんです。

2日間、バスの中でも、長島愛生園での夜にも、彼女やお母さんと3人でいろんな話をしたし、全体でも話をしました。徳島から岡山の長島愛生園まで3時間くらいかかります。その間、バスの中でみんなが次々にいろんな話をしながら行くんですね。語ることがよろこびになった子どもたちはやっぱり幸せです。

これは長島愛生園一泊研修の写真ですが、園の中でもいろんな研修をしていきました。これは、入所した最初の日にハンセン病患者を入れたクレゾール風呂です。

行かれた方はあると思うんですけど、また機会があれば是非訪ねていただきたい場所です。

現地でハンセン病回復者の方とも語り合いました。聞くだけじゃないんです。一人一人の思いも伝えていくんです。

一番前の託也さんは、喋りたくて喋りたくてという思いの中で、自分自身の思いを伝えていきます。その語りにつられて生徒たちも語ります。そんな語り合いの中で、子どもたちの心はどんどん豊かになっていきます。

そして、みんなでカレーを作ったんです。カレー作り、みんなすごく上手です。ニンジンで、じゃがいもで、もう何とも言えない場面です。それで、肉がたっぷりなんですよ。この取組を応援してくれる肉屋さんがいて、これだけの値段でこれだけの肉を用意してくれるかという思いになります。

デザートにはシャインマスカット。これもみんな大よろこびです。この方も、かつての同和対象地区学習会でお世話になった八百屋さんです。多くの皆さんのご支援の中で、本当にありがたい時間を過ごさせてもらいました。

そして、夜の語り合いがすごかった。牛肉たっぷりのカレーライスを食べた後の子どもたちが、仲間との信頼と尊敬を込めて自分の思いを語っていくんです。かつての同和対象地区学習会のキャンプファイヤーでの語り合いのように、子どもたちが次から次へとその1日の学びと自分自身への決意を語るんです。一人一人の言葉がやっぱりしみ込んでいきます。

翌日は邑久光明園に行ってグループに分かれて、ハンセン病回復者の皆さんと膝をつき合わせて語り合っています。その少人数の語り合いの中で、すごかったのは、ハンセン病回復者の方を真ん中にして回復者の方と部落問題を語り合ったことです。自分が部落出身であることを伝えた託也さんの語りにびっくりされていましたが、回復者の方が体験された部落問題について語ってくれました。

部落差別の現実にも触れて、回復者の方は「私は37歳でここに収容されたけど」から始まって、ハンセン病回復者の方が部落問題を語られる。そういう語り合いができていくんです。そして、納骨堂で献花をする

んですけど、皆さん、人権こども塾の中高生の語りはすごいです。

(言葉に精一杯の思いを込めて、力強く)実はこの「人権を語り合う中学生交流集会」は1996年にスタートして、今年で29年目です。そして、29年間、立ち上げから実施したのは吉成さんです。始まったのはちょうど中野さんが中学3年の時です。

この29年目にして、吉成さんの体調が悪かったこともあって、はじめて私はコーディネーターとして壇上に上がったんです。吉成さんが28年間やっていたから、急遽吉成さんの変わりに登壇しました。その中学生集会でパネリストを務めてくれた壇上の2人の高校生。この会場にも来てくれていますから、後半しゃべってくれると思いますけど、すごいんです。

フロアの参加者、中学生・高校生を相手に授業をするんです。「手をあげてください」とかフロアとのやり取りがどんどんあるんです。その語ってくれた高校生の1人は、起立性調節障害で、中学校は2年まで1日も通常の登校できていません。それが、中3でたまたま午後登校した時に「人権を語り合う中学生交流集会」のチラシを見て、吉成先生の所に行って「その会に参加させてください」と言って、中学生集会に参加するようになります。

その時に会った仲間とつながっていく中で意見発表し、それが高校に行く力になります。皆さん想像してみてください。中学校でほとんど登校できていない子が高校に見事合格し、高校での、最初の中間テストの成績を見せてもらった時に、平均点80点を超えているんです。高校の平均80点をいうのは相当高い点数です。その子は学科で成績1番なんです。それを見せてもらった時に、学力の問題、学び方の問題は、人間の生き方の問題なんだと思いました。本気で自分自身を語り合っていく人権学習が、人生をどう変えていくか、その可能性を実感します。

これから聞いて頂く音声は、「人権を語り合う中学生交流集会」のフロアから語ってくれた高校生の語りです。本人にも了解を得て、皆さんに聴いてもらいますが、その高校生は、私や吉成先生のような教師になりたいと語っています。そういう夢を語ってくれるんです。人権に取り組む教師になりたいと語ってくれるんです。その言葉を皆さんに聞いていただいて休憩に入りたいと思います。「人権を語り合う中学生交流集会」での高校1年のこの語りです。なぜ教師になろうと思ったのか、小学校、中学校で味わってきた切ない体験をバネとして教師を目指す高校生の言葉が、会場の中学生の背中をグッと押していきます。

私は、小学校5年生と6年生でいじめを受けていました。その当時はすごく苦しかったんですけど、今となってはいじめられてよかったなって思うんですよ。その理由が、いじめられたから将来の夢ができたんですよ。私の夢は、森口先生とか吉成先生とかみたいな中学校の先生になることなんです。中学校で、こういう人権の会とかしてみたいと思うんですけど、何でいじめられたのに学校に関わろうかとしているのかっていうと、私みたいな思いをした人たちに寄り添いたいなっていうのがあって。自分も受けたんですけど、その時に助けてくれた親友がいるんですけど、その子も中学校でいじめを受けて不登校になっちゃったんです。

中学校時代は離れていたんですけど、去年もこの集会に参加してくれた子だったらわかると思うんですけど、一緒に去年は2人で参加していたんですけど、その子はバレーボールをして、いじめられて学校に行きたいけど行けなかった。学校に行こうとして正門まで行くんですけど、足に力が入らんくて、教室まで行けないっていう現状があって、1年半くらいかな。不登校になっちゃったんです。

私は当時学校が離れていたんで、その実態を知らなくて、自分がいじめられた時は助けてくれたのに、その子がいじめられている時に助けられなくて、そのことを知ったのは自分と同じ学校に転校して来てからだったんです。そのことがとても悔しくて。自分は助けてもらったのに、何で助けられなかったんだろうってなっちゃって。それで教員になろうっていう夢ができたんです。いじめって本当にダメだって思うんですけど、きっかけつくりにもなれるかもしれないし。そういう悔しい思

いをして来たので、自分も将来はそういうことに繋げていきたいなっています。ありがとうございます。

皆さん、「T-over人権教育研究所・人権こども塾」を立ち上げて5年になりますけど、人権こども塾の取組は、私たちのよろこびです。昨年、「人権こども塾・みんなでトークオーバー2023・人権文化祭」という取組を実施しました。会場は、「(徳島県立)文化の森」にある「徳島県立二十一世紀館」です。会場を借りるにも行政の支援はありませんから、会場費は我々が出さなければなりません。舞台に立ったら子どもは成長するというのはわかるけど、そんなことできるのかという中でチラシも作りました。

(よろこびを言葉に込めて)見事なんです。中高生の語りが。その語りに癒されていくんです。実は、私の義理の父親が車椅子で妻と一緒に会場に来てくれました。義父と妻と一緒にその会場に来て、久しぶりに中高生の語りを聞いて、どれだけ幸せな時間を過ごしたか。元気になったか。

あの人権文化祭は、NHK松山放送局が入って、その一部が「Dearにつぼん」(2024年2月4日放送)で放映されました。その映像に車椅子の父親と妻が、わずかな時間ですが、映されていたものですから、大学時代の友だちにいっぱい紹介をして、多くの仲間がその番組を観ました。

今年は11月3日に会場が鳴門教育大学です。子どもたちの堂々たる語りに出会っていただけたらと思います。同じ鳴門です。T-over人権教育研究所のホームページでまた詳しいものが出ますので、是非おいでいただいて、子どもたちの生の声に出会っていただけたらと思います。本当に癒されます。

やっぱり、本気の語りというのは、心に沁み込んでいきます、力が湧きます。後ろに人権こども塾や中学生集会のパネルを展示していますから、この後の休憩時間に是非見てください。子どもたちの活動の場面です。やっぱり輝いています。すべての学校や地域社会における人権学習においても、そんな語り合いを創造していきたいと強く思います。

(いっぱいの笑顔で)今年の「人権を語り合う中学生交流集会」で瀬戸中学校の生徒が涙を流しながら語った時、会場の後方で、瀬戸中学校の人権担当の先生が一生懸命涙を拭いていました。瀬戸中学校の校長先生が、熱いまなざしでその生徒の語りを受け止めていました。そんな先生方の姿を美しいと思います。本心をさらけ出し、共感と連帯の絆でつながる子どもたちの姿は輝き続けます。

皆さん、是非子どもたちの活動を応援してやってください。ホームページで活動の報告と活動支援金の募集も行っています。是非ご覧ください。人権こども塾のメンバーも参加していますので、子どもたちの活動を伝えるパネルを見ていただいて感想を語っていただけたら子どもたちはよろこびます。本当に人権教育はよろこびです。

今日も松茂中学校の仲間も来ていますが、2学期には、人権教育の研究授業が予定されています。子どもたちが自分自身の思いや願いをイキイキと語る。その研究授業を待ち焦がれる語り合いの人権学習を予定しています。教職43年目の研究授業です。その研究授業につながる後半にしたいと思います。

では10分間の休憩にします。